

MJIIT 短期留学プログラム報告書

理工学研究科電気工学専攻 博士後期課程1年

(プログラム参加時)

芝崎 大樹

近年、産業界のみならず多くの業界において、事業展開がグローバル環境で行われています。研究においては、他の業界に比べ、早い段階から諸外国で行われてきていますが、アジア地域でなく、欧米諸国に留学する傾向にあったと思われます。これは、日本がアジア地域の中では技術先進国であり、目標とするのが欧米諸国であったからです。しかしながら、現在、アジア地域と欧米諸国の技術革新の差は縮まっています。今後、アジア地域の代表として日本と共にマレーシアがグローバルの技術革新を牽引して行く国であると考えていました。その理由は3つあります。

- (1) Vision 2020のもと、2020年までに先進国入りを目標としていることです。
- (2) アジア地域だけでなくイスラム諸国との連携や、近年では米国などの大国とも協力強化を推進しており、多角的な外交政策を行っています。
- (3) マレーシア日本国際工科院 (MJIT) の設立です。この設立は日本・マレーシア間の技術革新の推進だけでなく、ASEANの技術革新の拠点になるからです。

この様に、日本とマレーシアは経済や外交協力だけでなく、技術革新・工学教育においても、アジア地域の代表として牽引して行くことができます。この様な理由により、吉岡奨学金 MJIT 短期留学プログラムに応募しました。

MJIT では Centre for Artificial Intelligence & Robotics (CAIRO) の Prof. Datin. Dr. Rubiyah Yusof のもと「アクチュエータの位置決め制御系の設計に関する研究」を行いました。研究所はマレーシア工科大学 (UTM) と MJIT にオフィスが1か所ずつあり、構成員は Rubiyah 先生を所長としてアカデミックスタッフ、研究員、大学院生、事務と多くの方々が研究や仕事をされていました。

研究に関しては2か月という時間を有効利用するため、日本であらかじめ新たな制御手法を提案しました。そして、Rubiyah 先生とは提案法について議論をするということになりました。私の研究についての議論やアドバイスは当然のことながら英語で行われ、初めは、研究で主張したいことの50%も言えず、歯がゆい思いをしました。また、Rubiyah 先生は MJIT の学院長にもなられた為、大変お忙しい状況ということもあり、思うような研究ができるのか心配でした。そこで、私は Rubiyah 先生と今回のプログラム中に「日本で提案した制御手法を論文として提出するまでのところまで持っていく」という目標を設定しました。目標達成のために、Rubiyah 先生と研究について議論するための「時間確保」と「研究の主張のま

とめ」に主眼を置きました。時間確保は Rubiyah 先生の秘書さんと綿密にスケジュール調整を行い、アポイントを取りました。時々、アポイントなしでお伺いしていましたがとても熱心に議論をさせていただきました。研究の主張については箇条書きで主張したいことを英語で列挙し、補足を資料や自分の言葉で補うようにしました。その結果、限られた時間の中で議論し、共に目標に向かって進んでいくことができました。

研究以外では CAIRO の研究員や MJIIT の学生さんと昼食をとったり、クアラルンプール市内観光やマラッカ観光などに行ったりしました。研究員や学生さんの大半はマレーシア人ですが、そのほかにもイラン、オマーン、イエメン、スーダンなどからの留学生もいました。彼らと話す内容はたわいもないことから授業の質問、そして国際情勢まで多岐にわたりました。彼らとは Facebook や LINE で現在も交流を続けています。また、私の友人で同期の明治大学理工学部電気電子生命学科を卒業したシャハ君（現在 MJIIT 修士学生）には携帯電話の購入、マレーシアの企業についてや F1 観戦など色々サポートしてもらいました。滞在中には日本の他大学の学生さんも英語研修などで MJIIT に来られていましたので、困っていることがあればお世話をさせて頂き、日本人コミュニティーも大事にするようにしていました。

明治大学特任教授の堀江先生の計らいにより、ナジブ・ラザック首相に謁見することが出来ました。ナジブ首相への自己紹介では研究内容とマレーシアでの生活についてお話させて頂きました。お会いする前には、沢山練習をし、当日は緊張しましたが、想像通りの自己紹介ができたと思っています。ナジブ首相は優しい方でしたが、マレーシアを引っ張っていく力強いリーダーでもあると感じました。また、MJIIT パブリックレクチャーではラフィダ・アジズ前マレーシア国際貿易・産業大臣（現 Air Asia X 会長）に質問をさせて頂きました。マレーシアのエグゼクティブとお話したり、大勢の方の前で質問したりしたことで、今までより度胸が付き、どんなシーンにおいても動じなくなったと思います。

吉岡奨学金 MJIIT 短期留学プログラムにおいて、マレーシアの成長は著しく熱気のある国という印象を受けました。また、外国で生活するにはコミュニケーションがいかに重要であり、互いに理解し合えれば、目標に向かってぐんぐん進むことができるとわかりました。その為には英語能力の向上も必要ですが、自分の専門分野はもちろんのこと、世界情勢・文化などの基礎知識も知っておく必要があると感じました。今回の経験を活かし、Rubiyah 先生との共同研究を進め、新たな制御系の設計に関して提案していき、日本とマレーシア、その先の ASEAN の産業に貢献したいと考えています。また、MJIIT でお世話になった学生さんが日本に来られた際は恩返しをし、日本・マレーシアの友好関係をより強固にしたいと思っています。

今回のマレーシア留学において、奨学金を頂いたことに感謝し、ローム・ワコー株式会社吉岡洋介会長に御礼申し上げます。留学を後押ししていただいた指導教授石田義久先生、電気電子生命学科教授小野治先生、明治大学特任教授・外務省参与堀江正彦先生、関係各所の皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。また、短期留学中も健康を気遣ってくれた家族に感謝いたします。



CAIRO メンバー



マラッカのビーチにて



ナジブ首相謁見



ルビヤ先生と



マラッカ観光



セパンサーキット・シャハ君と